

令6 中学校・高等学校国語（8枚のうち1）

（解答はすべて、解答题紙に記入すること。なお、字数指定のある場合は句読点等の記号を一字と数えることとする。）

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（本文には一部表記を改めたところ及び省略したところがある。）

著作権保護の観点から、本文を掲載いたしません。

令6 中学校・高等学校国語(8枚のうち2)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること。なお、字数指定のある場合は句読点等の記号を一字と数えることとする。)

著作権保護の観点から、本文を掲載いたしません。

(馬渕浩二『連帯論 分かち合いの論理と倫理』)

問一 傍線部①、③、⑦、⑪、⑫の片仮名は漢字に、漢字は平仮名に書き改めなさい。

問二 傍線部⑨「実相」の本文中における意味として最も適切なものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 実際の見え方 イ 真実の姿 ウ 元来の在り方 エ 本来の意義 オ 現実の様相

問三 傍線部②を説明した次の文の空欄に入ることばを、本文中のことばを使って、二十字以内で書きなさい。

連帯には、こと。

問四 傍線部④とはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 自分の仲間だと認識した人間のためには献身的であるが、それ以外の人間は気にかけないことが当たり前になるということ。

イ 同じ集団に属する人間には共感することができるが、異なる集団に属する人間には共感できなくても仕方がないということ。

ウ 人間同士において、近くの他者と良好な関係を築くために、遠くの他者と敵対関係になることはやむをえないということ。

エ 感情が人間関係を左右することで、集団の内部と外部という空間的な距離は、連帯には影響しないことが当然になるということ。

オ 仲の良い人間と険悪な関係になる人間とが存在することによって、集団内部における差別が既成事実になるということ。

問五 傍線部⑤とはどのような世界か。本文中のことばを使って、五十字以内で書きなさい。

問六 傍線部⑥の「集団の内部と外部とを隔てる」と同じ内容のことばを、本文中から三十字で抜き出し、最初と最後の三字を書きなさい。
い。

問七 傍線部⑧の「尺度」で判断したとき、「連帯」と呼ぶのに「値する」ものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 階層性が完全に廃棄され、平等性により特徴づけられる非現実的な連帯。

イ 指導的立場にある一人の人物が、垂直的な階層性により支配する連帯。

ウ 垂直的な階層性を伴いながらも、平等な連帯を理念として掲げる連帯。

エ 連帯する個人が横に連なり、垂直的な階層性が完全に排除された連帯。

オ 民主的な手続きで選出された人物によって、平等に組織化された連帯。

問八 傍線部⑩の説明として最も適切なものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 連帯が人間社会において必要なことは自明であるが、全ての連帯が「正しい」とは限らないため、例えば一国の指導者が国民に団結や自己犠牲を強いる連帯の在り方については、その連帯の共同性の正否について思考し直さなければならぬということ。

イ 連帯が帯びる共同性は連帯自体が持つ有用性を全て説明できるものではないため、例えば連帯が「われわれ」と「彼ら」を分かつ条件を示すことで、異なる価値基準により連帯の有用性を証明するなど、連帯の「正しさ」を補完し続ける必要があるということ。

ウ 連帯は完璧な事象ではなく、その内に不都合な性質を含み持っていることに留意し、例えば連帯による結合の包摂や排除の条件、その境界の正当性について判定することなどをもって、常に「正しい」連帯であるかを判断していかなければならないということ。

エ 連帯という事象には権力という垂直的な力が元来備わっているため、例えば集団内においてその権力が許容される範囲を確定し集団内の平等性が確保されていることを明示することで、連帯が帯びる共同性の価値を再構築していかなければならないということ。

オ 親和的な感情によって形成される連帯と差別的な感情によって形成される排除とは表裏一体であるため、例えば集団内を支配する権力の条件を明らかにして、利己主義を排除することによって、本来連帯がもつ共同性の力を強化しなければならぬということ。

問九 傍線部⑬の理由を説明した次の文の空欄に入ることばを、三十字以内で書きなさい。

連帯は、事象であるから。

令6 中学校・高等学校国語（8枚のうち3）

（解答はすべて、解答题用紙に記入すること。なお、字数指定のある場合は句読点等の記号を一字と数えることとする。）

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（本文には一部表記を改めたところ及び省略したところがある。）

著作権保護の観点から、本文を掲載いたしません。

令6 中学校・高等学校国語(8枚のうち4)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること。なお、字数指定のある場合は句読点等の記号を一字と数えることとする。)

著作権保護の観点から、本文を掲載いたしません。

(伊与原新『八月の銀の雪』)

問一 傍線部①、④、⑥、⑧、⑨の片仮名は漢字に、漢字は平仮名に書き改めなさい。

問二 傍線部⑤「駄々をこね」、⑩「おもむろに」の意味として最も適切なものを、次のア～オからそれぞれ一つ選んで、符号で書きなさい。

- ⑤ ア 異議を唱え イ お世辞を言い ウ 賞賛を述べ エ わがままを言い オ 不満を口にしろ
⑩ ア ゆっくりと イ 毅然と ウ 意味ありげに エ 大儀そうに オ 急いで

問三 傍線部②における「わたし」の様子を説明した次の文の空欄Aに入ることばを十六字で、空欄Bに入ることばを九字で、本文中からそれぞれ抜き出して書きなさい。

自然界でアロペアレンディングと呼ばれる A という行動をする動物達と B としている自分自身の状況とを比較して落ち着かなくなっている。

問四 空欄③に当てはまることばとして、最も適切なものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア うすら笑い イ 満面の笑み ウ 冷笑 エ 不敵な笑み オ 苦笑い

問五 傍線部⑦とあるが、「宮下さんの笑顔」が「わたし」には「まぶし」く感じられた理由として最も適切なものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 「わたし」と宮下さんの生まれてきた環境に大きな差はないと思うが、大勢の仕事仲間にもまれて充実した日々を過ごしている宮下さんと、娘と二人で過ごすしかない自分との差を思い、悲しくなったから。

イ 特に恵まれた環境で生まれ育ったわけではないという点で「わたし」と宮下さんに大きな差はないのに、「わたし」が母親として自信を持っていない一方で、誇らしげに仕事をする宮下さんの姿に感銘を受けたから。

ウ 「わたし」も宮下さんも生まれ持った才能に大きな違いはないと思うが、これまでの人生において努力を続けてきた宮下さんと努力を怠って才能を磨けなかった自分との違いを思い知って、恥ずかしくなったから。

エ 他の人と比べて「わたし」はこれまでの人生において精一杯努力をしてきたと思うが、宮下さんが自信をもって仕事をしている姿を見て、自分も一層強い心を持って生きていこうと決意を新たにしたらから。

オ 宮下さんと比べて「わたし」が母親として劣っているとは思わないが、仕事に対して前向きに取り組んでいる宮下さんの姿を目にし、仕事と子育てを両立している一人の女性として憧れを抱いたから。

問六 傍線部⑧のように「わたし」が涙をこぼした理由を、「母親」「娘」ということばを使って、六十字以内で書きなさい。

問七 傍線部a～eの表現に関する説明として最も適切なものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア 傍線部aは、簡潔な応対によって、宮下さんが網野先生のことを快く思っていないことを示している。
イ 傍線部bは、省略を用いて、宮下さんの話を聞いた「わたし」の困惑した様子を際立たせている。
ウ 傍線部cは、明確な否定を用いることで、「わたし」の心が強く揺さぶられている様子を表している。
エ 傍線部dは、平仮名を用いて、果穂の幼さと「わたし」の子育ての苦勞を伝えようとしている。
オ 傍線部eは、感動詞を使って、忘れていた過去の記憶を思い出した「わたし」の姿を強調している。

令6 中学校・高等学校国語(8枚のうち5)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること。なお、字数指定のある場合は句読点等の記号を一字と数えることとする。)

三 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

長年連れ添った紫の上を亡くした源氏は、深い悲しみの日々を過ごしていた。

大将の君などにだに、御簾隔ててぞ対面したまひける。「かく、心変りしたまへるやうに、人の言ひ伝ふべき頃ほひをだに思ひのどめてこそは」と念じ過ぐしたまひつつ、うき世をもえ背きやりたまはず。御方々に稀にもうちほのめきたまふにつけては、まづいとせきがたき涙の雨のみ降りまされば、いとわりなくて、いづ方にもおぼつかなきさまにて過ぐしたまふ。

後の宮は、内裏に参らせたまひて、三の宮をぞ、さうざうしき御慰めにはおはしまさせたまひける。「母のたまひしかば」とて、対の御前の紅梅取り分きて後見ありきたまふを、いとあはれと見たてまつりたまふ。二月になれば、花の木どもの盛りになるも、まだしきも、梢をかしう霞みわたれるに、かの御形見の紅梅に鶯のはなやかに鳴き出でたれば、立ち出でて御覧す。

植ゑて見し花のあるじもなき宿に知らず顔にて来ゐる鶯と、うそぶき歩かせたまふ。

春深くなりゆくままに、御前のありさまいにしへに変らぬを、めでたまふ方にはあらねど、静心なく、何ごとにつけても胸いたう思さるれば、おほかたこの世のほかのやうに、鳥の音も聞こえざらむ山の末ゆかしうのみいとどなりまさりたまふ。山吹などの心地よげに咲き乱れたるも、うちつけに露けくのみ見なされたまふ。ほかの花は、一重散りて、八重咲く花桜盛り過ぎて、樺桜は開け、藤はおくれて色づきなどこそはすめるを、その遅く疾き花の心をよく分きて、いろいろを尽くし植ゑおきたまひしかば、時を忘れずにはほひ満ちたるに、若宮、「まろが桜は咲きにけり。いかで久しく散らさじ。木のめぐりに帳を立てて、帷子を上げずは、風もえ吹き寄らじ」と、かしこう思ひえたりと思ひてのたまふ顔のいとうつくしきにも、うち笑まれたまひぬ。「おほふばかりの袖求めけん人よりは、いとかしこう思し寄りたまへりかし」など、この宮ばかりをぞもてあそびに見たてまつりたまふ。

(『源氏物語』)

(注) ※1 大将の君——源氏の息子。

※3 後の宮——源氏の娘で三の宮の母。

※5 母——紫の上。生前、三の宮を愛育した。

※2 うちほのめきたまふ——少し顔をお見せになる。

※4 三の宮——源氏の孫。

※6 うそぶき——和歌を口ずさんで。

問一 二重傍線部A、Bの助動詞の文法的意味を書きなさい。

問二 波線部X、Y、Zについて、それぞれの敬意の対象を、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 源氏 イ 大将の君 ウ 後の宮 エ 御方々 オ 三の宮

問三 傍線部①の源氏の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 誰もいたわりの言葉をかけてくれたことに涙している。 イ 自身の心を象徴するように降る雨に恨めしさを感じている。

ウ 雨で親しい人との会う機会が減ったことを悲しんでいる。 エ 亡き人を悼む涙が流れ続けてどうにもならなくなっている。

問四 傍線部②とあるが、「鶯」は何を「知ら」ないのか。十字以内で書きなさい。

問五 傍線部③は、誰の、どのような状況を述べたものか。三十字以内で具体的に書きなさい。

問六 傍線部④から読み取れることとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 涙に暮れる毎日でも源氏が庭に咲く花々を愛でていること。 イ 三の宮に対して源氏が庭の花々の名前を教えていること。

ウ 花のあるじが花の盛りを理解して庭をしつらえていたこと。 エ 人の世の出来事とは関係なく毎年季節が巡っていくこと。

問七 傍線部⑤を現代語訳しなさい。

問八 傍線部⑥は、「大空におほふばかりの袖もがな春咲く花を風にまかせじ」(『後撰和歌集』読人しらず)という和歌を踏まえたことばである。この部分における源氏の様子の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 桜の木のために空を覆うほどの大きな袖を求めた昔の人と、桜の木を取り囲む几帳と帷子を求めた三の宮の発想は類似しており、それほどの和歌を詠んだ三の宮の知性に舌を巻いている。

イ 桜の木の周りに几帳を立てて帷子を垂らせば、風が吹いても桜の花が散らずに済むという三の宮の発想は、大空を覆う袖で桜の花を守ろうとした昔の人よりも知的だと目を細めている。

ウ 桜の花を取り囲む几帳と帷子で桜の花を守ることができると言った三の宮の考えは、空を覆う袖で桜の花を守ろうとした昔の人の考えと同じくらい荒唐無稽なものだとあきれている。

エ 桜の花を几帳と帷子で囲めばよい風よけになると言った三の宮の考えは、大空を覆う袖によって桜の花を風から守ろうとした昔の人と同じように大胆な発想であると称えている。

令6 中学校・高等学校国語（8枚のうち6）

（解答はすべて、解答用紙に記入すること。なお、字数指定のある場合は句読点等の記号を一字と数えることとする。）

四 次の漢文は、古の王に比べて自分は真の王とは言えないと話す齊の宣王に対し、孟子が王のあるべき姿を語ったものである。本文は孟子が宣王に語るところから始まる。これを読んで、あとの問いに答えなさい。（設問の都合上、一部訓点を省略したところがある。）

「王之不^ル王^{タラ}、不^レ為^サ也。非^{ザル}不^レ能^ハ也。」曰^{ハク}、「不^レ為^サ者^ト与^ニ不^レ能^ハ者^一之形^ハ、何^ヲ以^テ異^{ナルカト}。」曰^{ハク}、「挟^{ミテ}太^シ山^ヲ以^テ超^{ントス}北^シ海^ヲ。語^レ人^ニ曰^{ハク}『我^ハ不^レ能^ハ』。是^レ誠^ニ不^レ能^ハ也。為^ニ長^ク者^一折^{ラントス}枝^ヲ。語^レ人^ニ曰^{ハク}、『我^ハ不^レ能^ハ』。是^レ不^レ為^サ也、非^{ザル}不^レ能^ハ也。故^ニ王^ノ不^レ王^{タラ}、非^{ザル}挟^{ミテ}太^シ山^ヲ以^テ超^{ントス}北^シ海^ヲ之^レ類^ニ也。王^ノ不^レ王^{タラ}、是^レ之^レ類^也。」

「老^{トシテ}吾^ガ老^ヲ以^テ及^{ボシ}人^ノ之^レ老^ニ、幼^{トシテ}吾^ガ幼^ヲ以^テ及^{ボサバ}人^ノ之^レ幼^ニ、天^ハ下^ハ可^シ運^{ラス}於^ニ掌^ニ。詩^云、『刑^ニ于^ニ寡^ニ妻^ニ、至^リ于^ニ兄^ニ弟^ニ、以^テ御^{をさむト}于^ニ家^ニ邦^ニ。』言^フ下^ニ拳^{ゲテ}斯^ノ心^ヲ加^{フルヲ}中^ニ諸^{これヲ}彼^上而^レ已^ニ。故^ニ推^{セバ}恩^ヲ足^リ以^テ保^{ンズルニ}四^シ海^ヲ、不^レ推^サ恩^ヲ無^シ以^テ保^{ンズルニ}妻^子。古^ノ之^レ人^ノ、所^ニ以^テ大^{イニ}過^{ギタル}人^者、無^シ他^ヲ焉。善^ク推^ク其^ノ所^ニ為^ル而^レ已^ニ矣。」

（『孟子』）

（注）※1 太山——山東省にある有名な山。

※2 北海——渤海。

※3 詩——ここでは『詩経』を指す。

※4 刑——模範を示す。

問一 傍線部②、⑥の読みを、現代仮名遣いの平仮名で書きなさい。

問二 傍線部①を書き下し文にしなさい。

問三 空欄③に入ることばとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 挟太山 イ 越北海 ウ 折枝 エ 語人

問四 傍線部④の理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 王が身近な老人や幼い者を大切に思う心を他の老人や幼い者にまで広げれば、民衆が王に対して悪く思うことがなくなるから。

イ 王が全ての老人をいたわり、全ての幼い者を大切にすることで、その心は天下の人々に広がって良い国の基礎が固まるから。

ウ 王が老人には慎しく、幼い者には謙虚に振る舞わせることで、互いを尊重する姿勢が芽生えて天下に秩序が生まれるから。

エ 王が自らの老いを受け入れ、自分の幼さにも向き合うことで、天下の人々の心を理解することができるようになるから。

問五 傍線部⑤と同じ内容を指すことばを、本文中の『詩経』の引用より二字で抜き出して書きなさい。

問六 傍線部⑦は、「そのなすところをおすのみ。」と訓読する。この読みになるように、解答欄に訓点を施しなさい。

問七 本文で述べられている内容として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 王は一人の人間として、自分ができるところとそうでないことを見極めつつ、周囲の人々の力も借りながら国を治めるべきだ。

イ 王は人民のためにあらゆる手段を講じるとともに、人民に尊敬や慈愛の心を行きわたらせることで、天下を治めるべきだ。

ウ 王は国家の課題に誠実に取り組むとともに、人が生まれ持った道徳心を奨励することで、国家に安寧をもたらすべきだ。

エ 王は修養に励み政治的な手腕を高めることで、国家を安定させ、民衆にも勤勉であるように働きかけるべきだ。

令6 中学校・高等学校国語（8枚のうち7）

（解答はすべて、解答用紙に記入すること。なお、字数指定のある場合は句読点等の記号を一字と数えることとする。）

五 次に示す【単元の目標と評価規準】は「新聞記事をもとに自分の意見を述べよう」という単元の目標と言語活動、評価規準を示したものである。『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』、『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編』を踏まえて、あとの問いに答えなさい。

【単元の目標と評価規準】

単元名
新聞記事をもとに自分の意見を述べよう
～信頼性の高い情報を根拠として自分の考えを伝える～

1 単元の目標

(1) 具体と抽象など情報と情報との関係について理解する。〔知識及び技能〕

(2) 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。〔思考力, 判断力, 表現力等〕

(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力, 人間性等〕

2 本単元における言語活動
興味をもった新聞記事について、意見を述べ合う活動。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	A
①具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。	①「 B 」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討している。	①学習の見通しをもち、進んで情報の信頼性の確かめ方を理解して使い、新聞記事について多様な考えを想定しながら材料を整理し、意見を述べ合おうとしている。

問一 **【単元の目標と評価規準】**の空欄Aには、観点別学習状況の評価の3観点の一つが入る。空欄Aに入ることばを書きなさい。

問二 「1 単元の目標」(1)に関連するものとして適切でないものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア 生徒が、一定のきまりを基に順序立てて系統化することによって情報を理解できるようになること。
- イ 生徒が、複数の情報源から収集した情報を照らし合わせて情報の信頼性を確かめることができるようになること。
- ウ 生徒が、手に入れた情報を図や絵、記号などを用いてグループに分けることができるようになること。
- エ 生徒が、原因と結果の関係を把握することをおして、物事を筋道立てて理解したり表現したりできるようになること。
- オ 生徒が、文字を手書きすることの意義に気が付き、文字文化に関する認識を改めて形成できるようにすること。

問三 **【単元の目標と評価規準】**について、次の問いに答えなさい。

- (1) 空欄Bには、この単元で指導する領域が入る。空欄Bに入る領域を書きなさい。
- (2) この単元における学習の成果を活用した言語活動例として最も適切なものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。
 - ア 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、文章の種類や文体、語句などの表現の仕方を工夫する活動。
 - イ 我が国の伝統と文化に関して書かれた文章を読み、我が国の言語文化について論述する活動。
 - ウ 自分の考えについてスピーチをしたり、それを聞いて、質問したり、論拠を示して反論したりする活動。
 - エ 論理的な文章や実用的な文章の本文や資料を引用しながら、自分の意見や考えを論述する活動。
 - オ 異なる形式で書かれた複数の文章や、図表等を伴う文章を読み、他の形式の文章に書き換える活動。

令6 中学校・高等学校国語模範解答 (8枚のうち8)

総計	200

問一	①	顕在	③	帰属	⑦	位階	⑪	きそん	⑫	生起
問二		イ								
問三		かならず排除		される者たち		が存在する				
問四		ア								
問五		人間の感情の及ぶ範囲は狭いにも関わらず、見知らぬ他者と結び付								
問六		集団に		を引く						
問七		エ		自由や平等と		いった根源的な価値を支える				
問九		世界や人間の存在、自由や平等と		いった根源的な価値を支える						

一	55

問一	①	口角	④	真面目	⑥	けんそん	⑧	沈黙	⑨	震える
問二	⑤	エ		ア						
問三		母親以外の		メスが、子育てを助ける						
問四		オ		問五						
問五		オ		イ						
問六		母親として娘に何もしてあげない		と自分を卑下して、安堵したから。						
問七		ウ		自分のあり方を認めても、下しい、安堵したから。						

二	50

問一	A	自発	B	完了
問二	X	ウ	Y	ア
問三		エ		Z
問四		花のあるじの死。		オ
問五		源氏の出家を望む気持ち		
問六		ウ		
問七		どうにかして長く散らさずにおこう	問八	イ

三	45

問一	②	ゆえに	⑥	ゆえんの
問二		能はざるに非ざるなり。」と。		
問三		ウ	問四	ア
問五		家邦		
問六		推ス其ノ所ヲ為ス而已矣。		
問七		イ		

四	35

問一	主体的に学習に取り組む態度
問二	オ
問三	話すこと・聞くこと
問三	ウ

五	15